

九州地域戦略会議 第21回夏季セミナー「全体スケジュール」

会場：かめ福オンプレイス

| 日時 | 行事 | 場所 | |
|-------------|--|---|----------------------|
| 8月6日 (火) | 13:30～ 13:45 | 開会式 | 2階 ロイヤルホール 中・西 |
| | 13:45～ 15:00 | 基調講演 政策研究大学院大学 教授 竹ヶ原 啓介 氏 テーマ 「地域の持続可能な発展に向けた協働と金融の役割」 | 2階 ロイヤルホール 中・西 |
| | 15:30～ 18:00 | 第1分科会 「支援機関による企業DXの加速化」 | 2階 プリンスホール A |
| | | 第2分科会 「カーボンニュートラルの推進」 | 2階 ロイヤルホール 東 |
| | | 第3分科会 「大学との連携による地方創生」 | 3階 長州の間 ① |
| | 第4分科会 「労働力減少・人手不足時代における 産学官の対応策と九州の発展戦略」 | 3階 長州の間 ② | |
| 8月7日 (水) | 9:00～ 10:30 | 全体会議 | 2階 ロイヤルホール 中・西 |
| | 10:40～ 15:00 | 産業行政視察 | — |

九州地域戦略会議 第21回夏季セミナー「分科会」趣旨・論点

第1分科会 「支援機関による企業DXの加速化」

趣旨

日本企業全体の大多数を占める中小企業等において、デジタル技術やデータの活用による変革を通じた企業価値の向上に向けてDXの取組は有益であるが、その多くが人材、情報、資金不足等により自社のみでのDX推進は困難な現状にある。

普段から地域の中小企業等の経営に近い金融機関や商工会議所等の支援機関が連携してサポートするスキームを構築し、企業DXの取組を加速化する。

さらに、行政その他関係機関等も含めた協力体制とすることで、企業DXの促進による地域全体の利益創出と持続可能な成長に資する取組を検討する。

論点

① 支援機関による企業のDX支援のあり方

地域の中小企業等に対するDX支援の重要性、DX支援の基本的なアプローチ、想定される主な支援機関等について議論する。

② 支援機関同士の連携のあり方

DX支援において重要とされる支援機関同士の連携の意義、連携にむけた課題、連携のあるべき姿等について議論する。

③ 行政その他関係機関等の関わり方

支援機関の連携によるDX支援において、行政その他関係機関の関わり方について議論する。

第2分科会 「カーボンニュートラルの推進」

趣旨

2050年カーボンニュートラルの実現に向けては、次世代エネルギーである水素の利活用、再生可能エネルギーの導入促進、カーボンリサイクルの推進等、産学官連携での取組を促進する必要がある。

環境と経済・社会のバランスを保ちながらカーボンニュートラルを実現するためには、環境を守る視点のみならず、産業活性化や地方創生にもつながるビジネスチャンスと捉える視点も重要である。

論点

① 水素・アンモニアの利活用

2050年カーボンニュートラルに向けて、水素やアンモニアは必要不可欠なエネルギーに位置づけられている。水素・アンモニアの火力発電への転換を始め、九州内における様々な利活用の可能性について議論する。

② 再生可能エネルギーの利活用

地熱資源や日照が豊富な九州では、各地で再生可能エネルギーの導入が進んでいる中、地熱発電を活用したグリーン水素の製造など、再生可能エネルギーの更なる利活用策について議論する。

③ CO2の利活用

工場等と連携した農業用ハウス栽培施設におけるカーボンリサイクルの推進等、排出削減だけでなく、CO2を資源として捉え、その有効活用策を議論する。

第3分科会「大学との連携による地方創生」

趣旨

大学等は、国公立を問わず、地域における「知」の拠点として、地域の将来を支える人材の育成や産業振興に多大な貢献をしており、地方創生にとって重要な役割を担っている。

また、新たな社会的要請に対しても、人材育成に限らず、技術革新のための研究開発や開発した技術の実証実験、社会実装の先導モデルの提示といった役割も期待されている。

論点

① 研究力の強化

学術研究の成果を社会的・経済的価値の創造に結び付け、社会からのニーズに応えていくことは高等教育の役割の一つ。

② 大学をはじめとした高等教育と社会との関係

知や情報が経済的な価値の源泉となることで、知の拠点である大学そのものが産業を支える基盤になることも期待されている。

③ 地方創生への大学の貢献

①②のように、高等教育機関、特に大学の研究機能は、教育機能とともに、地方創生にとって極めて重要な役割を担っている。改めて、地方創生に向けた大学との連携について考える。

第4分科会「労働力減少・人手不足時代における産学官の対応策と九州の発展戦略」

趣旨

少子高齢化の進展により労働力は減少し、人手不足が深刻化しており、この状況は長期に継続するとみられる。

本分科会では、労働力減少・人手不足の将来を展望した上で、人手不足対策や人材活用戦略を明らかにするとともに、労働力減少・人手不足時代における九州の発展戦略について検討する。

なお、本分科会は夏季セミナー参加者によるディスカッションを重視して運営し、専門家を招聘してのパネルシンポジウム形式はとらない。

論点

① 人手不足への対応策はどうあるべきか

・キーワード…無人化・省力化、DX、労働時間、賃上げ、
企業・団体の改組・マネジメント、外国人労働力

② 人材の活躍の場を拡げるためにどうすべきか

・キーワード…リスキリング、リカレント教育、エンゲージメント、Well-being、
ダイバーシティ、兼業

③ 労働力減少・人手不足のなかで九州の発展戦略はどうあるべきか

・キーワード…企業の生産性向上、企業・団体の統廃合、コンパクトな街づくり、
失われた30年からの脱却